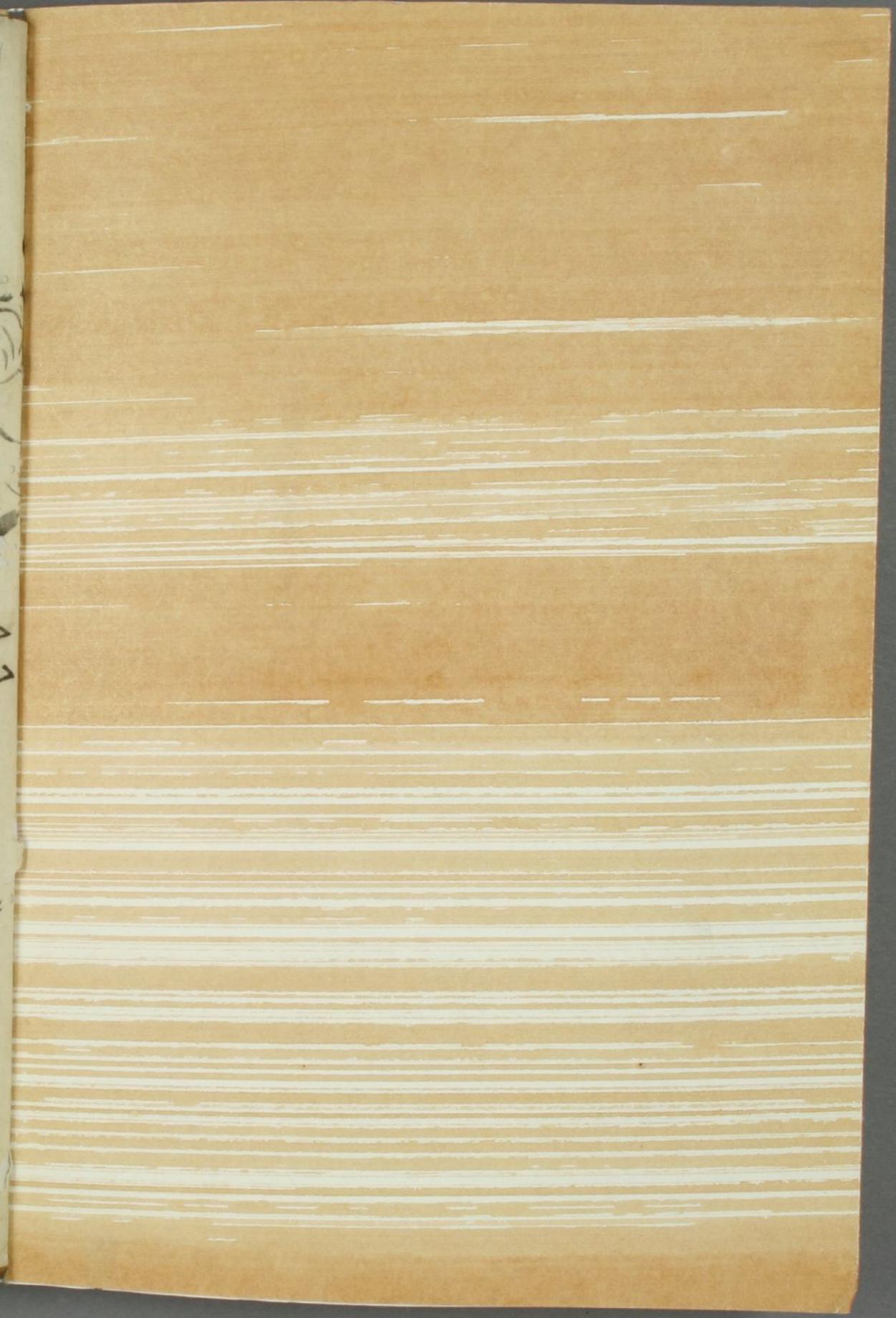


特別
千12
3643
197



寶曆
十三年
卯
解
人
在
卯
物
之
三



概としてこの日幸とてんを概万騎の軍兵はほくんと
日本れ海よりのところを年あふ波風をびくむりはどく
をふきとふたれて死あつたの故とてふべし神國の威徳と
と西南り海への是國に日本とてふはむかひをせといふはし
そよりそ代ふは是國に本船の事ありといふもこのかたむく
をい府より我船人志とてよりてお解人本船にい清府を
そむかむとるかりは後にこの構ふ軍あはは使者とていひてを
あけり後い或は加勢とていひてをなるとありはし
人王女代宣化天皇の御宇に任那といふ國より新羅と
新羅といふ國より大伴の狭子とていひて任那と
任那といふ國より任那といふ國より任那といふ國より任那
國のく業神玉皇の御宇に任那といふ國より任那といふ國より任那
に人むとていひてはとていひてはとていひてはとていひては
乃ふたりとていひてはとていひてはとていひてはとていひては
あいでい任那といふ國より任那といふ國より任那といふ國より任那
の海とていひてはとていひてはとていひてはとていひては
なりとていひてはとていひてはとていひてはとていひては
とていひてはとていひてはとていひてはとていひては
今あつたその亡魂新羅人海とていひてはとていひては
矣ふとていひてはとていひてはとていひてはとていひては
の神とていひてはとていひてはとていひてはとていひては
日本より任那に任那といふ國より任那といふ國より任那

概としてこの日幸とてんを概万騎の軍兵はほくんと
日本れ海よりのところを年あふ波風をびくむりはどく
をふきとふたれて死あつたの故とてふべし神國の威徳と
と西南り海への是國に日本とてふはむかひをせといふはし
そよりそ代ふは是國に本船の事ありといふもこのかたむく
をい府より我船人志とてよりてお解人本船にい清府を
そむかむとるかりは後にこの構ふ軍あはは使者とていひてを
あけり後い或は加勢とていひてをなるとありはし
人王女代宣化天皇の御宇に任那といふ國より新羅と
新羅といふ國より大伴の狭子とていひて任那と
任那といふ國より任那といふ國より任那といふ國より任那
國のく業神玉皇の御宇に任那といふ國より任那といふ國より任那
に人むとていひてはとていひてはとていひてはとていひては
乃ふたりとていひてはとていひてはとていひてはとていひては
あいでい任那といふ國より任那といふ國より任那といふ國より任那
の海とていひてはとていひてはとていひてはとていひては
なりとていひてはとていひてはとていひてはとていひては
とていひてはとていひてはとていひてはとていひては
今あつたその亡魂新羅人海とていひてはとていひては
矣ふとていひてはとていひてはとていひてはとていひては
の神とていひてはとていひてはとていひてはとていひては
日本より任那に任那といふ國より任那といふ國より任那

左の御王より二使 宗對馬守殿
 上宿友信家實を
 其の上友仲官
 下宿友正久しん
 色相以上百人
 来りて
 相國寺
 巢松軒瞻長老
 あんて
 宗對馬守殿
 由事久しんてよ
 不ときやうわ
 あるてひく
 宗對馬守殿
 依まつり
 合計百人
 唐人がり



朝縣園より
 江戸を道と程
 淨地寺大石附
 九路沙代家
 てうせん玉
 行しまと
 百十八里
 宗對馬守殿
 行しまと
 いとこと四十分
 松浦肥前守殿
 清道二約也
 つとつて式人
 くら得式人
 清道式人
 同 式人
 同 式人
 さうせんま
 ひまふま
 くららてん



いさか
ちとせんあいのつと
松平筑おちる

あいのちまよ
あごとれ下の雲

下のせま
すまう上のせま

松平大膳堂
上のせま

松平安藏考
あまのうまらに
三十九

依後翻と せり

松平左衛門尉
梅津千重
をるまら

いせんのりま
十八

松平信後
うじまら

酒井雅
十九

いさか
はのふし
十八

松平をいさか
相宗
竹垣

大志
毒藤
いせん

形名の大
いせん

くらに人
いせん

くらに人
いせん

いせん

都訓導
上馬

いせん

三穴平



加長佐渡守殿
 八幡宮
 休 七ニテホ
 井伊掃部頭殿
 今頃ハ
 戸田宗女中殿
 休 七ニテホ
 休 七ニテホ
 休 七ニテホ

使令 八人
 砲平 八人
 律平 八人
 洞鼓 八人



休 右ニテホ
 尾張中納言殿
 水師 八人
 休 七ニテホ
 福垣對馬守殿
 三田 三ノリ
 松平伴右衛門殿
 休 七ニテホ
 松平伴右衛門殿

使令 八人
 三都訓導 八人
 砲平 八人
 律平 八人
 洞鼓 八人



わらわ 小根合
中根大隅守友
松平清宗友
三浦松平三三才
泊り

井上河内守友
今井平左衛門友
万平守友友

休
三浦志摩守友
三浦平左衛門友

泊り
右田孫兵衛守友
右田平左衛門友
大北守友友

休
金谷 三ツ北九下
本多丹後守友
本多平左衛門友

本田伯耆守友
本田平左衛門友
本田守友友

本多丹後守友
本多平左衛門友

休
内辰丹波守友
内辰守友友

泊り
瑞清記保守友
久保守友友
横山守友友

休
本多伍左守友
小林守友友

螺角平六人
大高守友
大高守友

喇八平六人
大高守友
大高守友

使令 少人
つゝゝゝ

つゝゝゝ 少人

小童 少人

巾箱

印信陪軍官負
上馬

炮平 少人



正使しんし 三使の
 屋轎やこ 三
 中ちゆう 二人
 先せん 供くわう 二人
 正使官位名
 通政大夫使曹
 系議知製教



献上物目錄
 人參 卅斤
 大雁子 十疋
 大信子 十疋
 白苧布 三疋
 生苧布 三疋
 白綿細 五疋

上判事一人
 使令 二人
 及唱 二人



新花席 二十枚
 各文筆 五枚
 真墨 五匁
 靛蜜 百斤
 黄蜜 十匁
 上馬 六疋
 雁鳥 か二曲る三疋 六十連
 右の錦王より
 ほうはさくれ

上々官名
 のりお少
 八人してく
 からゆ 二人



又三使より松分
 献と物
 人参 十斤
 白照布 十疋
 虎皮 五枚
 右の錦王より
 ほうはさくれ
 けなりの
 上々之人 三人
 日鷹 一人
 日鷹 一人
 宗利 一人
 宗利 一人
 相原 一人

使令 二人
 小童 二人
 及唱 二人



副使 二使
 屋轎乗
 副使官位名
 通訓大夫弘文
 館典範知製
 教兼
 侍講官春秋
 館編修黄璿

三使の才二
 名
 名



大坂の漢すて九里の
 石川舟おて山より
 徳大名石田流石の
 石丸船出ゆ
 その乃川うと全
 新のふみのあふ
 まさあつさちりあさ
 ぬさあつさちりあさ
 あいふ路し江波を
 あらうてををを
 光るををををを
 御紋

上判事一人
 使令二人
 及唱二人
 からる二人

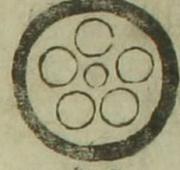




旗



宗對馬友



松平源三友



松平源三友



松平源三友



松平源三友

こまきり

小童 上人

上之官名

中奉

人

のり物
八人

から

人



松平源三友



小笠原源三友



安部源三友

源三友

源三友

源三友

源三友

右の甲一搜又四供
舟三艘七倉艘

使令 二人

やう

小童 二人

上

及唱 二人

上



つりし 兼人 一人
 たこと 三人
 むらと 一人
 こけと 一人
 今と 一人
 りと 一人
 せんと 一人
 ゆと 一人
 火と 一人
 おと 一人
 むと 一人
 みと 一人
 けと 一人
 とらと 一人

上判事 一人
 使令 二人
 及唱 二人
 かしら 二人

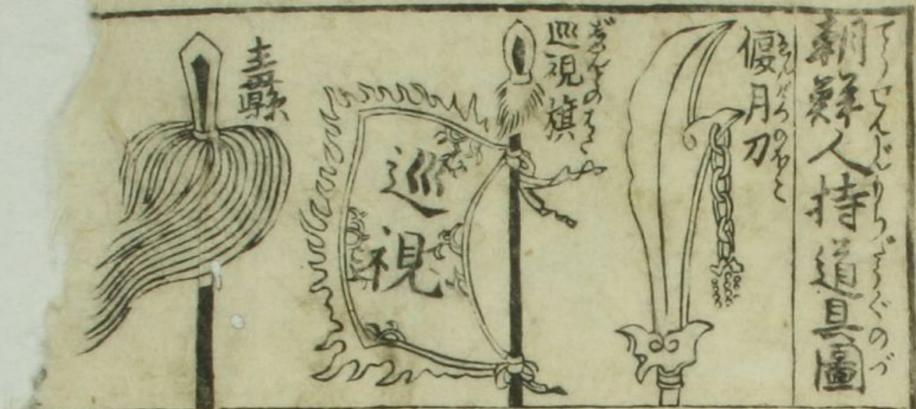


通制大夫弘文
 館校理知制教
 兼従延誥官春秋
 館記注李明度

三使の才三
 名
 以上信使と云

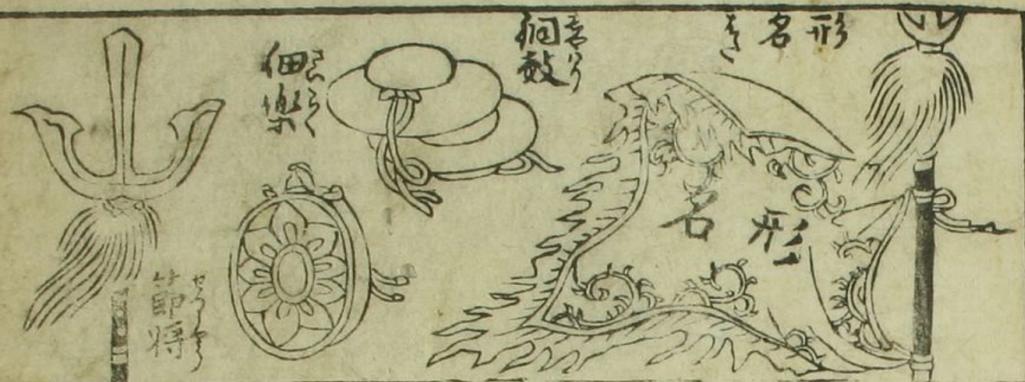


小童 上る 二人
 上々官名
 のりおのて
 八人してく
 からゆ 二人



朝鮮人持道具圖
 巡視旗
 主殿
 小童 上る 二人
 上々官名
 のりおのて
 八人してく
 からゆ 二人





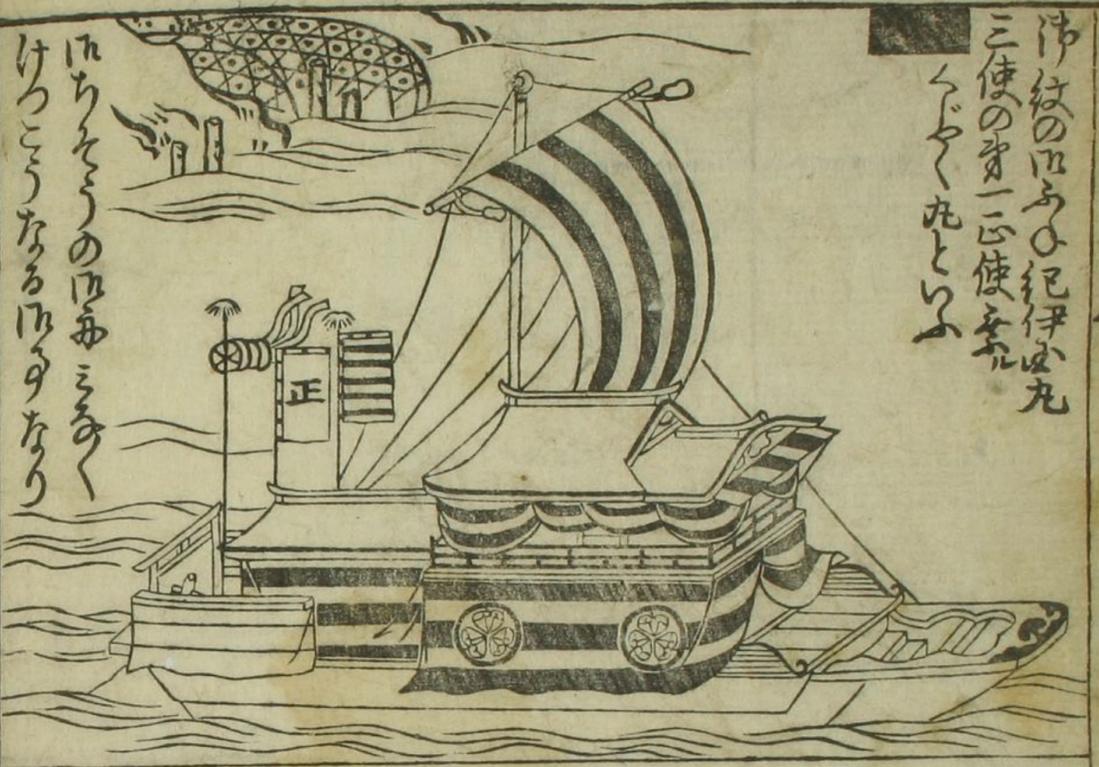
通詞頭 三人
 東福寺即宗院若
 長光
 西守長光
 宗對馬守長
 長光
 對馬守長
 長光



伴備 三人
 願直 三人
 下友 二百人
 下友 二百人



舟紋の四つに紀伊丸
 二使の舟一正使を
 くらぐ丸とす

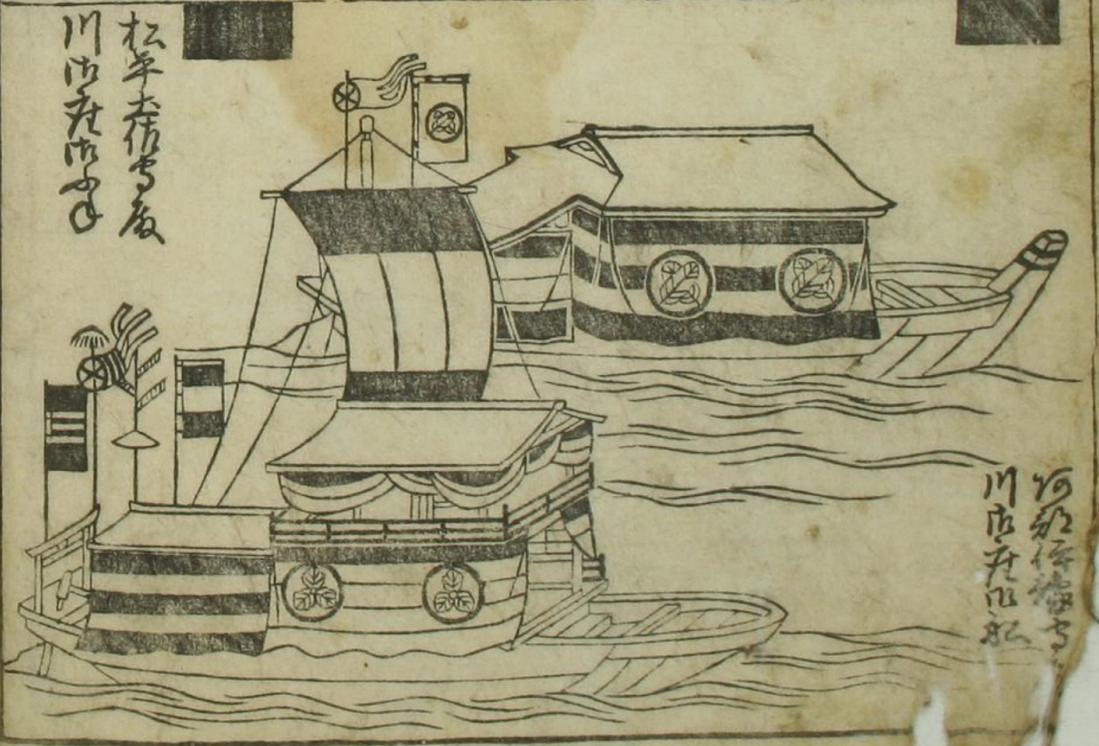


舟紋の四つに紀伊丸
 二使の舟一正使を
 くらぐ丸とす

舟紋の四つに紀伊丸
 二使の舟一正使を
 くらぐ丸とす



舟紋の四つに紀伊丸
 二使の舟一正使を
 くらぐ丸とす

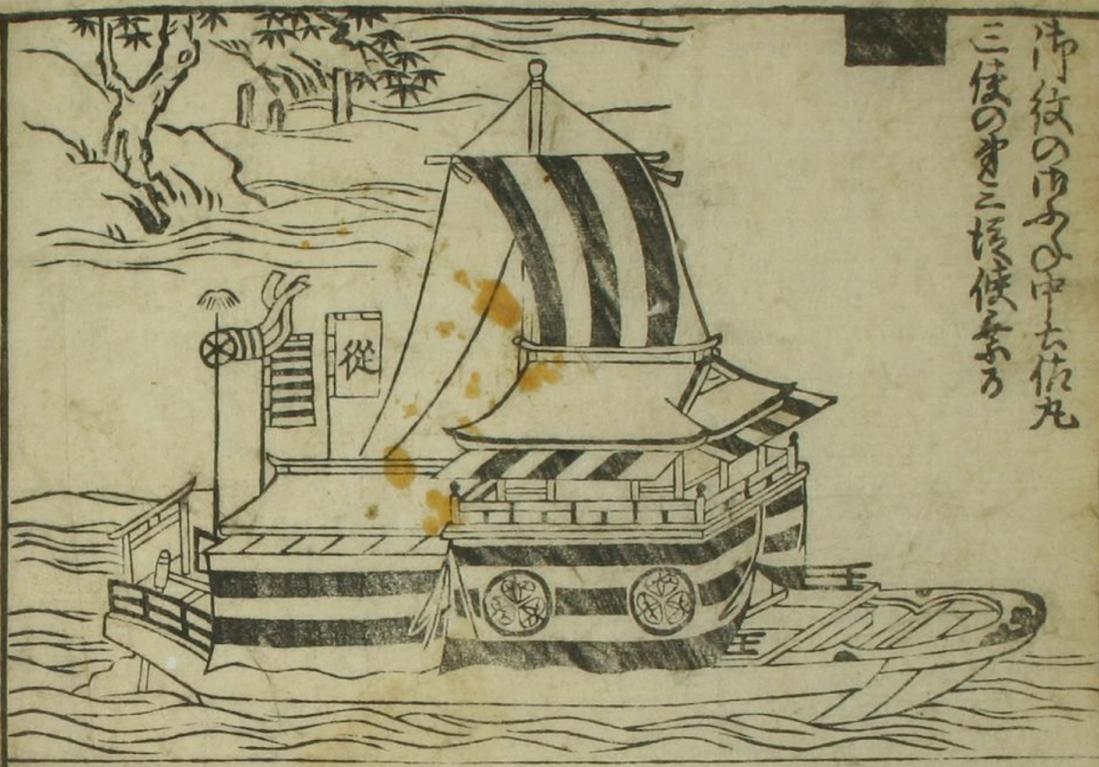


舟紋の四つに紀伊丸
 二使の舟一正使を
 くらぐ丸とす

舟紋の四つに紀伊丸
 二使の舟一正使を
 くらぐ丸とす



舟紋の西の中西佐丸
三隻の舟に候侍あり

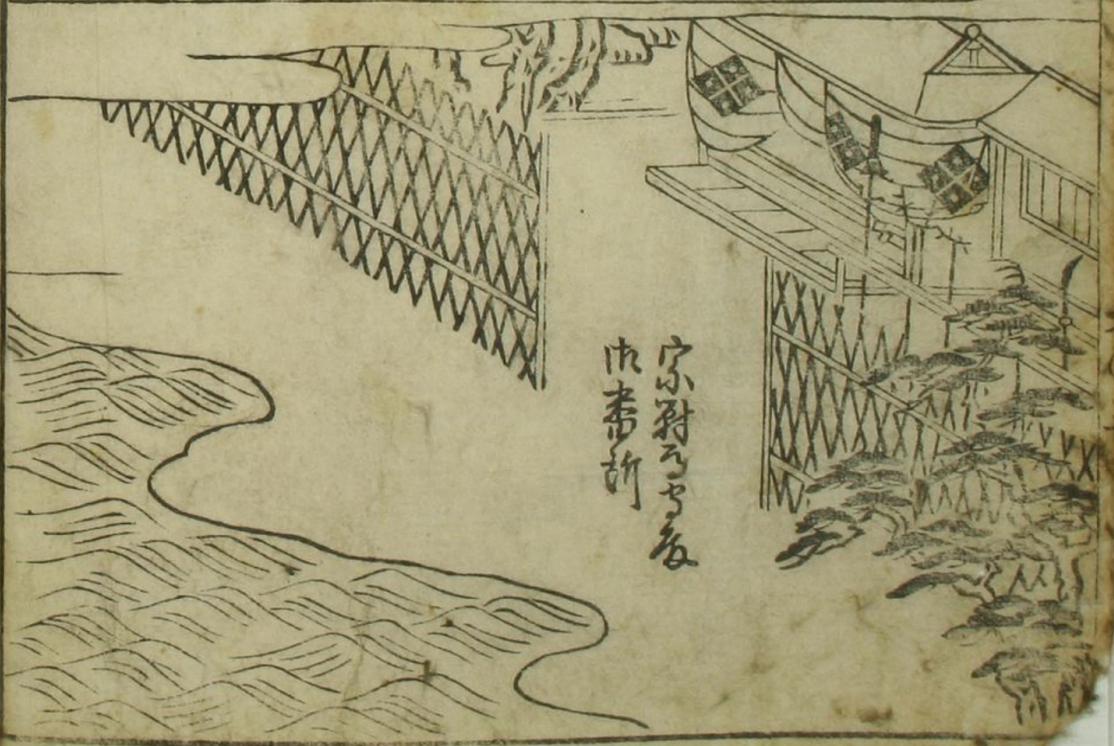


松平陽徳の舟
川内丸の舟

松平安親の舟
川内丸の舟



宗利の舟
内奉所



寺島三郎の舟
内奉所

寺島三郎の舟
大坂川口とあり



